

2012年8月19日 「お父様と私」 石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『天聖經』

礼節と儀式 第4章 祝福家庭の伝統と生活礼節

## 2) 信仰生活で模範となる家庭

私たちが行かなければならない道は、いずれにしても、かき分けて行かなければならない道です。それが私たちの力のみでは不可能なことを、生活するほど感じるようになります。ですから信仰者は、祈禱をしなければならないということを知らなければなりません。(71-276, 1974.5.5)

祈禱しなさい。祈禱は心情の補給倉庫です。時間がなければ、していることを通してでも祈禱できなければなりません。(27-89, 1969.11.26)

洗濯をしながらも、道を歩きながら祈禱しなければなりません。倉庫にどんどん積まなければならぬのです。空けておいてはいけません。(27-87, 1969.11.26)

常に祈禱する生活をしなければ、み旨の道に行くことができません。

皆さんは生活化するにおいてお金のことを考えるのではなく、み旨をまず考えなければなりません。(27-88, 1969.11.26)

皆さんは神様を背景にすることのできる、神様の息子や娘になったのでしょうか。神様を背景にしたいのなら、常に神様が共にいらっしゃるように、皆さんが神様と共にある人になっていなければなりません。小犬のように母親の懐を離れて独りで歩き回っては、母親の保護を受けられないのです。(祝福家庭と理想天国 I -982)